



**大阪部会(第 67 回)**

日 時: 2020 年 2 月 1 日(土) 18:00~20:05

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 67 回の出席者は 17 名。

(1)まず、篠原総一代表(同志社大学名誉教授)から、最近の経済教育ネットワークの活動が報告された。12 月 26 日東京、1 月 18 日沖縄の経済教室の概要と、3 月 21 日札幌で予定されている経済教室の内容が中心で、加えて東京部会での議論も紹介された。

(2)次に大塚雅之氏(三国丘高等学校)から、「公民分野の「情報社会」に関する単元開発ー巨大 IT 企業問題を題材としてー」と題する授業案が報告された。まず IT 企業の実態とそれらに対する独禁政策を知り、次にフェイクニュースが民主主義にゆがみをもたらす可能性があり規制され始めている現状を理解する。そのうえで、ネット社会における規制の是非を議論し、望まれる政策を立案するという 4 次の授業構成になっている。授業は始められたばかりで、4 次まで実践した結果が次回報告されることになった。

(3)奥田修一郎氏(大阪教育大学等)からは、様々な側面をもつ AI を、中学公民の授業でいかに取り上げるかについての問題提起があった。AI は科学技術によってもたらされたものであるが、その影響は非常に幅広い分野に及び、たとえば経済、法律、政治、倫理、社会、教育などに大きなインパクトを与えることが確実視されている。奥田氏の関心は、AI を社会科の授業で取り上げるとすれば、どの側面に焦点をあてて、何を学び、考えさせるかという問題にある。一つの分野に絞るべきなのか、多くの分野にまたがることを理解するべきなのかという点も問題になる。今後、具体的な授業計画の作成に進む予定である。

(4)安野雄一氏(大阪市立東三国小学校)から、「価値判断・意思決定力を育む社会科授業～まちで働く人々と経済を結びつけて考える一方略～」として、小学校 3 年生の社会科授業の実践例が紹介された。地域についての情報を集め「いいところ」を探すことから始まり、校外に出て地域巡検、お店見学、地域についての学んだことのまとめ、よりよくするためのパワーアップカードの作成へと進む。さらに、地域のお店とコラボして新しいことを始める授業まで計画されている。このような授業を通して、①未来をそうぞう(想像・創造)する子どもを育てる、②主体的・共同的に未来をそうぞうする子どもを育てる、様々なヒトとのつながりを大切にする子どもを育てる、ことを安野氏は目指している。

(5)丹松美代志氏(大阪学びの会代表など)から、大阪教育大学の教員養成課程で作成された社会科学学習指導案が紹介された。企業単元のうち「株式会社のしくみ」を課題とする授業である。日産のゴーン氏の話から入り、株式や株式会社について調査し、それをもとにゴーン氏の事件の内容や問題点について議論する。その後、株価が何を表しているのかを考え、日産の株価の動きを追いながら、



経済全体の動きや日産に起こった出来事と関連づける。最後にこの授業の理解をまとめ発表するという構成である。

(6)最後に河原和之氏（立命館大学など）から、「少子高齢社会への対応策～ジグソー法を通して多面的・多角的に考察する～」と題した授業例が紹介された。これは、大学の「教育課程・教育方法論」の授業において、学生達がジグソー学習を学ぶことを目的に作成されたものである。導入は、河合雅司『未来の年表』の人口減少カレンダーを用い、将来予想されている多くの事態を理解する。次に、その中から何が深刻かをペア学習で議論し、グループ学習で少子化の原因候補を学び、その対策としてとられている対策も知る。その後、4つのテーマに分けてエキスパート学習を行い、議論を経た後、元のグループに戻りエキスパート学習の成果を報告する。皆が4つのエキスパート報告を理解したうえで、あらためて少子高齢化対策を議論し提言する、という構成になっている。奥田氏からは、元々ジグソー法とは対立のある主体間の対話を促し議論を深めるための手法であったことからすると、限られた時間ではあるが、手法だけでなく背景にある考え方や期待される効果も伝えたいとの意見があった。

（文責 野間敏克）

次回開催予定： 2020年4月11日(土)、時間は18:00～20:00、場所は未定。